

# 夜行性動物舎の担当替え

## キーウイ新聞

2023.4.29 発行  
第1号

発行者 山田修平  
校閲 前田菜穂



▲匂いを嗅ぐために近づいてきたプクヌイ。=4月22日撮影

2023年度から夜行性動物舎で暮らす動物たちを世話する担当者が交代になりました。前任者の岩山さんから後任者の山田さんへ引き継ぎは概ね完了していますが、山田さんの作業はまだまだ手慣れていません。そのため、ちょっとした緊張感が動物たちにも伝わってしまいました。夜行動物舎で暮らすキーウイにとっても今年に変化の多い一年になりそうです。メスのプクヌイは、オスのジュンと比べて慎重な性格をしているように見えます。「プクヌイ！」と山田さんが声をかけながら飼育場の扉を開けると、プクヌイはプシュプシュ鼻息を立てながら近づき、腕の匂いをクンクンと約2分嗅いでいました。新しい飼育員と気が付いているのかもしれませんが、「毎日少しずつコミュニケーションをとって、キーウイに安心してもらうことが4月の目標です。」と山田さんは意気込みました。

## 日本庭園 in NZ

### ニュージーランドの楽しい情報

日本庭園は日本国内だけでなく、ニュージーランドでも見ることが出来ます。Our Auckland(2018)によると、Fukuoka Gardenという日本庭園が2017年にオークランドに再オープンしました。その庭園には日本とニュージーランド双方の在来植物が利用されており、オークランド市民の憩いの場になっています。

ニュージーランドでは大学における外国語学部日本語学科での学びの他、小学校や中学校でも日本語を学ぶことができるため、日本文化に親しみを覚えるニュージーランド人が一定数います。そのため現代の日本のポップカルチャーだけでなく、古い文化の一つである日本庭園もよく知られています。日本式の景観の歴史を見てみると、日本庭園が建設される前、まず日本の植物がニュージーランド人の興味を惹いたようです。1880年にはタケ・カエデ・ミカンがニュージーランドへ持ち帰られ、1897年には3000本のアヤメがクライストチャーチに植えられ都市景観に貢献したようです(青柳(編)、2008)。なお、もともとFukuoka Gardenはオークランド動物園内にありました。

ニュージーランドの絶滅危惧種キーウイって何者？

キーウイはニュージーランドのみ生息する鳥です。一般に鳥は軽い体をしており、翼を飛ばたかせながら空を飛ぶことができます。しかしキーウイは進化の過程で、地面で生活することを選び、飛ぶことをやめました。そのため退化した小指大の翼を持ち、ずんぐりと丸い体型をしており、ずっしりと重みがあります。また、地面を力強くけって走れるようたく立派な脚を持つことが特徴的です。同じような鳥にはダチヨウやエミューがいます。現在は絶滅危惧種に指定されており、ニュージーランドでは保全機関を中心に、市民も参加して保全が行われています。

引用一覧

Our Auckland(2018) Fukuoka Garden wins national awards, <https://ourauckland.aucklandcouncil.govt.nz/news/2018/6/fukuoka-garden-wins-national-awards/> (2023.4.20参照)

青柳まちこ(編)(2008)ニュージーランドを知るための63章, 明石書店; 東京, p278-279